

飽くなき挑戦は志である。



安全で安定した 上下水道の整備

公共下水道事業の安定した運営をめざすべく、下水道審議会に諮問し、下水道使用料の改定について検討中です。今年度の事業として、地盤が軟弱な竹間沢東地区の、マンホール浮上を防止するための工事を実施。第一中継ポンプ場は、老朽化が進んでいるため、耐震診断を実施。水道事業としては、竹間沢東地区の配水管布設替工事、昨年度から実施している浄水場の配水ポンプ更新工事が完了します。

公園の整備と 緑化の推進

昨年度は、「みよしグリーンサポーター隊」との協働による平地林管理を推進し、平地林等の緑地の環境整備と保全に努めました。また、町指定の保存樹木の枯枝等

落下事故の防止、道路に面する保存樹木の診断を実施しました。三富新田のケヤキ並木修景事業では、生態系に配慮しながらケヤキの若木の植樹に努めます。上記の施策に加え、さいたま緑のトラスト制度を活用し、平地林の公有地化に向けた事業を展開します。昨年度は、民間企業と賃貸借契約を結んだ「自然の森・レクリエーション公園」を開設し、少年スポーツ活動やレクリエーション活動に寄与しました。今年度は、ジョギングコースの整備に着手し、「自然の森・総合スポーツ公園」整備事業を進めます。昨年度は3か所の公園が開設。今年度は、富士塚土地区画整理地区内に第1号街区公園の設計を行います。また、公園や子供広場の遊具の安全点検や修繕、清掃、樹木剪定等の維持管理に努めます。

環境と調和した 活気にあふれるまちづくり

未来の子どもたちに クリーンな環境を

大量に排出される温室効果ガスにより、地球温暖化は日々刻々と進んでいます。微小粒子状物質(PM2.5)による大気汚染、さらに、東日本大震災にともなう原子力発電所の事故により、放射性物質への対応やエネルギー問題への取組みが重要な課題となつていきます。これらの複雑かつ深刻な環境問題に対応するため、自然環境への負荷が少なく、再生可能エネルギーを利用した住宅用太陽光発電設置者への補助事業を引き続き実施するとともに、再生可能(太陽・風力・水力など)エネルギーを中心とした「創エネ」と「省エネ」によるエネルギーの地産地消の研究を進めながら、地域の活性化に取り組んでいきます。微小粒子状物質(PM2.5)対策については、埼玉県と連携を図りリアルタイムで周知するとともに、大気中の濃度が高くなる予測される場合の注意喚起の体制を構築して

いきます。また、広域ごみ処理施設、ふじみ野市・三芳町環境センターについては、平成28年度の供用開始に向けて建設工事を計画的に進めており、ふじみ野市との協議の中で、現行の収集・運搬体制を基本としながらも、あらためて住民生活に配慮した収集・運搬体制の確立に努めます。町では、クリーン活動や地域でのボランティア活動が積極的に行われている一方で道路や公園などへのごみのポイ捨て、犬のフンの放置など、公共の場を利用する人のモラルの低下を指摘する声も寄せられています。こうした状況をふまえ、住民の皆さんの協力による、「(仮称)三芳町をきれいにする条例」の制定を進めます。増加する消費生活のトラブルに対応するため、専任相談員による消費生活相談を週4日に拡充します。

シティブロモーション で飽くなき挑戦

三富新田の世界農業遺産申請は、農林水産省の専門会議によるFAOへの推薦は見送りとなりました。三富新田世界農業遺産推進協議会の総意により協議会は継続し、選挙結果の検証を

行うなど、次回への再申請をも念頭に、情報発信や啓発事業を行うことになりました。上田県知事からは「何度でもチャレンジしたらいい!」という言葉をかけていただきました。「何度でもチャレンジする」飽くなき挑戦は、まちづくりに携わる上で、決して忘れてはならない心の持ち方であり、志であると感じました。三富新田の農業は、人と自然を、過去と未来を、先進国と途上国を結ぶ、32年の歳月を超えて先人たちが残し、継承してきた人類の大切な財産です。私たちの使命は、三富新田における持続可能な農業を世界に発信し、守り、そして、後世に継承していくことだと考えます。

を進め、支援していきます。今年度も引き続き、町内外への情報発信等、メディアへ積極的に働きかけていきます。「世界一のいも掘りまつり」も開催し、みよし野菜を広くPRします。**農商工連携6次産業チャレンジ支援:**町の農産物を活用した加工品の研究開発や新たなビジネスの展開など、6次産業化を支援します。新たに、「みよし野菜6次産業創業塾」を開塾し、人材の育成・支援を行い、チャレンジ支援事業につなげます。町の農業は、専業農家率、後継者率も県内トップクラスです。しかし、50年、100年後の未来を考えると、高齢化、後継者難、耕作面積の維持困難などの問題も懸念されます。新たに三芳農業の未来を見据え、「みよし農業塾」を開塾します。将来

の課題に備えるとともに、都市住民との交流の場、自然との共生等、多種多様な役割のある都市農業を持続発展させ、新規就農者の育成や地域住民への農業理解を深めていきます。町は、東京都心から30kmに位置し、気軽に日常生活とは違う体験や活動が出来る潜在能力が高い地域です。魅力あふれる元気なまちづくりのため、町の魅力を発信し(情報人口を増やし)、町に来て体験してもらい(交流人口を増やし)、皆さんに愛着を持って住んでもらえるような(定住人口を増やし)広報戦略に力を入れていきます。広報みよしも、県コンクール4部門で特選に選ばれ、全国広報コンクールに埼玉県推薦作品として提出されました。さらに魅力あ

ふれ愛される広報づくりに力を入れていきます。今年度は、ふるさと民間大使を募り、FacebookやLINEの活用により、町の魅力や情報を広く発信していきます。また、シティブロモーション自治体連絡協議会の加盟自治体が広がる中で、お互いに情報収集や調査研究を行い、研修会や意見交換会を実施し、町の魅力を創造し地域の内外へと広げていきます。今年度は、町制施行45周年の節目の年として様々な事業に「45周年」という冠をつけ、「故きを温ねて新しきを知る」一年にしたいと考えます。そして、その心は「何度でもチャレンジしたらいい!」シティブロモーションで、未来のまちづくりへ飽くなき挑戦です。

— 三芳町長 林 伊佐雄 —



施政方針の全文は町ホームページからご覧いただけます。

